

凍結を防ぐには

- * 暖かい地域でも機器や配管内の水が凍結し、破損するおそれがありますので、下記の必要な処置をしてください。
- * 停電時は凍結予防ヒーターが働きませんので、「水抜きによる方法」(21ページ)で凍結による破損防止の処置を行ってください。

対策①

通常の寒さの場合

《凍結予防ヒーターによる方法》

電源プラグを抜かない

外気温が下がると凍結予防ヒーターが自動的に機器内を保温します。
※リモコンが「切」の状態でも働きます。



対策②

冷え込みが厳しい場合※

《通水による（蛇口から水を流す）方法》

※-15℃以下または、-15℃より気温は高くても風がある場合

1 ガス栓を閉める

2 給湯栓から水を流す

1. リモコンの運転スイッチを「切」にしてください。
(リモコンがある場合)
2. 給湯栓より少量の水(太さ約4mm)を流したままにしておきます。

- サーモスタット式やシングルレバー式の混合水栓の場合は、温度設定をもっとも高温にして開けてください。

- 再使用時の温度設定は注意してください。



3. 流量が不安定になることがあるので、約30分後にもう一度確認してください。

おねがい

寒い日は多めに水を流してください。

知っておいてね

- 「対策①」「対策③」は、機器内は保温しますが、配管・バルブ類の凍結予防はできませんので、配管は水入口・湯出口まで保温材でおおうなどして凍結予防してください。
- 「対策②」は、機器本体だけでなく、給水、給湯配管・バルブ類の凍結予防もできます。

凍結を防ぐには

対策③

長期間使用しない場合

《水抜きによる方法》



水抜き栓を外すときの注意

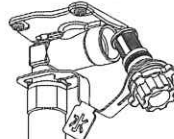
■2か所の水抜き栓を外す

■完全に抜けるまで外す

※機器の水抜きをする場合、リモコンを「切」にし、機器が冷えてから行ってください。

※水抜き栓を外すときは、水が飛び出すおそれがありますのでゆっくり外してください。

良い例



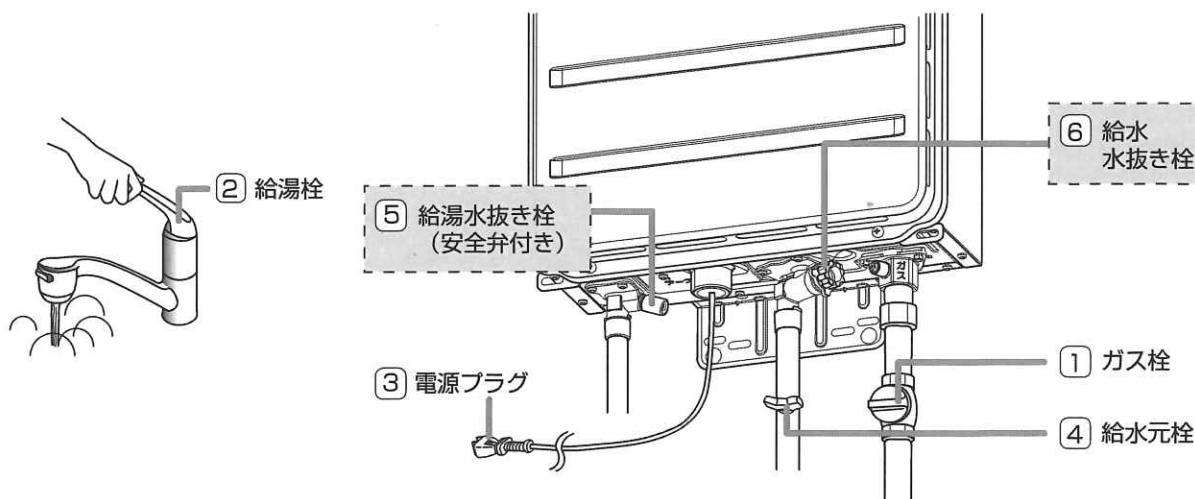
完全に抜けるまで外す

悪い例



少しゆるめただけ

リモコンがない場合	リモコンがある場合
① ガス栓 ① を閉めます。 ② いずれかの給湯栓 ② を全開にします。 ③ ②の操作より30秒以上経過したら、給湯栓を開いたままで電源プラグ ③ を抜きます。	① ガス栓 ① を閉めます。 ② リモコンを「切」にします。 ③ 電源プラグ ③ を抜きます。
④ 給水元栓 ④ を閉めます。 ⑤ 全ての給湯栓 ⑤ を開けます。(シャワーも含む) ⑥ 給湯水抜き栓 ⑤ をはずします。) ※⑤～⑥は 給水水抜き栓 ⑥ をはずします。) 順不同 再使用するまでこのままにしておきます。	



警告



ぬれ手禁止

■ぬれた手で電源プラグを触らない
雨が降り出している場合は電源プラグを抜かない

→感電のおそれがあります。

※手順通り行わないと、機器が凍結し、破損事故の原因になります。

お手入れのしかた（月に1回程度）

フィルター

バスアダプターについているフィルターを外して、こまめに掃除してください。

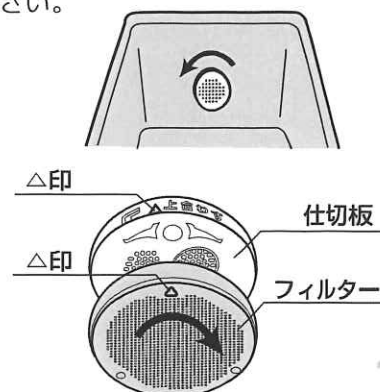
1 バスアダプターのフィルターを左に回して外す

2 フィルターを掃除する

- フィルターおよび仕切板に付着した湯あか（ごみ、糸くず、固形物など）は、こまめに歯ブラシなどで洗い落してください。
- 目詰まりするとおふろの温度が設定温度にならないなどの原因となります。

3 元通りに取り付ける

フィルターの△印と仕切板の△印を合わせてはめ込み、右にカチッと音が鳴り、止まるまで回してください。



おねがい

フィルターを掃除した後は、必ず元のように取り付けてください。
フィルターが外れていたり、取り付けかたが不十分だと機器の故障の原因になります。

水抜き栓フィルター

- お湯を使用後は、機器内のお湯が高温になっていますので、リモコンの運転スイッチを「切」にし、機器が冷えてから行ってください。
- 水抜き栓を外すときは、水が飛び出すおそれがありますので、ゆっくり外してください。

1 給水元栓を閉める

2 すべての給湯栓（シャワーを含む）を開ける

3 水抜き栓を外し、フィルター部分のゴミを取り除く

4 元通りに水抜き栓を取り付ける

5 すべての給湯栓（シャワーを含む）を閉める

6 給水元栓を開けて水抜き栓周辺に水漏れがないことを確認する

